

行歯会だより(第42号)

2009 年 1 月(毎月発行)

(行歯会＝全国行政歯科技術職連絡会)

年頭に寄せて

行歯会会長 石上 和男
(新潟県福祉保健部長)



新年明けましておめでとうございます。「行歯会だより」も皆さんのおかげで第42号が発行されることになり、内容も極めて充実し、最近は会員の皆さんから「読むのが楽しみだ」という声が多方面から聞こえてくるようになりました。編集委員をはじめ、投稿し紙面を盛り立てていただいている皆様に感謝いたします。

去年は私にとって大きな転機の年でありました。ひとつは全国初の歯科保健推進条例を作ったことと、福祉保健部長になったことです。

歯科保健推進条例の意義や今後の展望は、間もなく皆様のお手元に届くはずの口腔衛生学会雑誌の今月号巻頭言に記載したとおりですが、現在全国の行政に勤務する歯科医師・歯科衛生士数は千人近くになっており、これだけの専門家が一丸となって適切な政策を打ち出し、全国各地で実践できれば、国民の生活の質向上と健康寿命の延伸に大きく貢献できると確信を持っています。このことは行歯会と日本歯科医師会、8020推進財団などがこれから連携・共同して行おうとする取組の具体化につながることで、大いに注目と期待をいただきたいと思います。

後者について少し記述させていただきたいと思います。歯科医師が県の福祉保健部長を務めたことはこれまでに前例がありません。この意味でも大きなプレッシャーになりますが、開き直って毎日の仕事を進めています。1200人の部職員と一緒に仕事を進めることになりますが、その最終責任は私にありますし、良い結果が得られなければ結果責任も問われることになります。

一方、部長という立場は、自分の思ったことが

ある程度進められるのも醍醐味であり、仕事の進め方のモットーを、①仕事を前に進め、絶対に逃げないこと。(後を向いた仕事はしない) また、先手必勝で進めること。②仕事は組織で進めること。一体感を持ってもらうためには、メルマガなどを通じて自分の考えや趣味など幅広く事前にさらけ出しておくこと。③自分ひとりで仕事をするのではなく、人に仕事をしてもらうようにすること。そのためには組織活性化が不可欠であり、取組プロセスの共有化、やる気の醸成など職場風土の改革を行うこと。(現在部内の若手による組織活性化チームが勝手連を結成して活動中です。) ④成功事例を大々的に取り上げ、褒めること。などに置いています。

まだ部長就任10か月のホヤホヤですが、毎日のように知事から直接電話で指示があったり、議会答弁や圧力団体に苦労したり、やっとの思いでひとつの課題を解決したと思ったら更に多くの難問・奇問が出てくるなど「賽の河原の石積み」のような状況です。それでもこの間、歯科保健推進条例や新潟水俣病地域福祉推進条例の制定、8年連続むし歯数が全国一少ない県の達成、臨床研修医マッチング数の伸び率全国一、新型インフルエンザ対策の推進、子供医療費の対象拡大などいくつかの成果も上げられてきておりますので、それを土台に一層の取組を進めたいと思っています。

あまり年頭のご挨拶にはふさわしくないことを書きましたが、行歯会会員の皆様の益々のご健勝とご活躍を祈ります。

「口腔衛生学会雑誌 第59巻 第1号」に掲載されている石上会長の巻頭言は、次号行歯会だよりで全文転載させていただく予定です[編集担当]。

連携のみえた歯周病対策事業視察レポート

兵庫県西播磨県民局県民生活部 龍野健康社事務所 井ノ原珠紀

昨年10月31日の秋晴れの日、香川県の三豊総合病院歯科保健センターの木村先生を訪ね、観音寺市（人口約65,000人 面積117k㎡）で行われている歯周疾患対策を取り入れた特定保健指導の実施現場を視察してきましたので報告します。

特定健診・特定保健指導が開始されてもう1年近くになります。当初の混乱が落ち着いてきたところで、歯科をどう導入させるか考えてみませんか。

1 歯科専門職の入った動機づけ支援コース

今回の参加対象者は、6・7月に特定健診を受けた者の中より動機づけ支援対象者となった方です。25人の方が参加されました。

観音寺市の動機づけ支援コースメニュー

- 1) 受付: 体重・腹囲・血圧測定 (15分)
グループごとに保健師・栄養士が座る。
- 2) 検査: 唾液の検査咀嚼力判定検査(25分)
歯科医師・歯科衛生士
- 3) 講話: 講話「生活習慣病予防の話」(40分)
内科医
- 4) 講話: 「歯とメタボの関係」(20分)
歯科医
- 5) グループワーク (30分) (5グループ)
 - ① 自己紹介
 - ② 6ヶ月後の目標体重(腹囲)の設定
食事・運動でどのように減らすかを栄養士、保健師がサポートしながら目標・行動計画を立てさせていく。
- 6) 次回のお知らせ等

6ヶ月後の評価までの支援

11月グループ支援(2回目)
行動目標・計画の修正確認

1月グループ支援
栄養・歯(評価)

3月中旬電話支援
励まし・声かけ

5月 評価

講話は参加者が飽きないように、理解しやすいように、パワーポイント等を使いテンポよくすすめます。

ここでもかなりの健康に対するモチベーションが上がったところで、グループワークが始まります。各グループにいる保健師・栄養士が行動や目標設定をしやすいようにうまく参加者の思いを引き出していきます。

終了後には、体重計や万歩計の貸し出し等もあり実践しやすいような環境づくりにも配慮されています。また、継続的なブラッシング指導などへも導いていきます。



(唾液・咀嚼力検査)

(グループ討議)

2 歯科が導入された理由

①以前からの医療費分析から医療費適正化対策としても歯科保健対策が重要であることを様々な機関が一緒に考えてきたこと。②国保ヘルスアップ事業で歯と健康の関係が評価できたこと(かむこととメタボの関係、血糖値との関係等) ③何よりも健康づくりに当然歯科は関与する分野であるという共通認識が得られていたことが、このH20年度からの新しい取り組みのスタートラインに揃ってたことにつながっているのだと思います。

3 視察を終えて

連携の始まりは人から人でそれが組織と組織の連携になりシステムが構築されていくのだと実感しました。特定健診・保健指導のスタート時に歯科が入らなかったことで若干焦りもありましたが、この視察を終えて元気をもらえたような気がします。

歯周病対策から健康に関与できる歯科専門職として具体的な連携をしていきたいと思います。



独特の「こし」のある讃岐うどん

「行歯会だより No34, No35」では、特定健診・保健指導への歯科の係りの先進事例として、「観音寺市国保ヘルスアップ事業での取り組み」を掲載させていただきました。※詳しくは下記 URL をご参照ください。

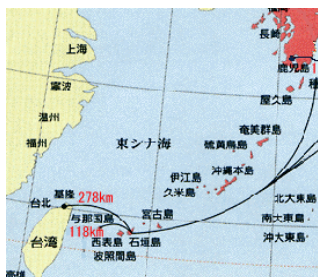
●No34 (2008年4～5月) http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/nioph/contents/No34_20080405.pdf

●No35 (2008年6月) http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/nioph/contents/No35_200806.pdf

地域紹介・事業紹介

～バンザイ！フッ素洗口元年！！～

沖縄県企画部八重山支庁 八重山福祉保健所健康推進班 西里八重子



みなさん、こんにちは。
今回は南国、日本最南端の福祉保健所から情報を発信させていただきます。

私の勤務する八重山福祉保健所は八重山諸島の

1つである石垣島の中心部にあり、石垣市と竹富町、与那国町の1市2町を管轄しています。沖縄本島へは約430km、隣国の台湾へは278kmといった場所に位置しています。

特産品はサトウキビから作られる黒糖、夏場には甘くておいしいパイナップル、そして近年その知名度を上げている石垣牛、などなどおいしい物には事欠きません。



《日本最南端の島波照間島》 《石垣牛のにぎり》



では、当福祉保健所の歯科保健業務の一部をご紹介します。

沖縄県では県民の健康づくりを積極的に推進するための行動計画「健康おきなわ2010」を平成13年度に、その中間評価をふまえた「健康おきなわ21」を平成19年度に策定し、各分野ごとにさまざまな取り組みを進めています。

沖縄県は皆さんもご存じのとおり3歳児う蝕有病者率、12歳児1人平均う蝕数ともに全国ワースト記録を更新しているため（行歯会だより第41号にも12歳児のグラフが出ていました）、特に「フッ化物」を応用したう蝕予防を全県的に展開しています。

当福祉保健所管内では、平成元年度には80%を越えていた3歳児のう蝕有病者率が平成15年度に初めて50%を下回り、平成19年度には35%ま

で引き下げられました。これは福祉保健所による普及啓発活動をはじめ、3市町がそれぞれの事業として、乳児後期における歯科衛生士による歯科保健指導の導入、1.6歳児、3歳児健康診査時でのフッ素塗布等、年齢層に応じた取り組みを積極的に実施し、むし歯予防に取り組んでいる成果だと思います。

また、管内の児童生徒のう蝕有病者率と未処置歯率の低下を図るため、平成18年度から児童生徒のう蝕予防に取り組んでいます。昨年度からは「6歳臼歯健康手帳～よい子の歯っぴーノート～」を作成し、萌出直後の6歳臼歯を保護するために管内全幼稚園児に配布しています。

今年度は、フッ化物応用の拡大を図ることを目的として、保育所関係者を対象にフッ素洗口に関する研修会を実施し、その安全性と効果をアピールしたところ、公立5件、私立2件で4歳児を対象に洗口が開始されました。さらに2件の保育所から説明会の依頼が来ています。難しいと尻込みしていたフッ素洗口でしたが、平成20年度は当福祉保健所にとって記念すべき“フッ素洗口元年”となったわけです。



今後は市町や地区歯科医師会との連携をさらに密にし、保育所時代にとどまらず、幼稚園、小学校へとフッ素洗口が広がり、「むし歯王国沖縄」から1日も早く脱却できるよう啓発活動を強化していきたいと思っています。



《洗口中の子どもたち》

「地域住民と共に歩む歯科保健事業」

～学び育てる、まちの歯科衛生士を目指して～



宮城県名取市保健センター(歯科保健事業所) 小齋 薫

行歯会の皆さま初めまして！

私の勤務する名取市は仙台市に隣接し、仙台空港を空の玄関に持ち、山の恵みと海の恵みのある温暖で風光明媚な人口7万人の「元気な都市・名取」です。最近では空港アクセス鉄道の沿線の開発が進み、大型ショッピングセンターと共に周辺は急ピッチで宅地化が進み、戸建てやマンションの建設なされ、人口が急増しています。

センターには保健師、管理栄養士、看護師、歯科衛生士がおり、他職種との連携のもと妊娠期から高齢者まで市民の健康をサポートしています。

歯科保健事業では平成8年7月より、高齢者訪問歯科診療事業が開始されました。当市のシステムは全国でも数少ない行政主体で地元歯科医師会の協力のもとに行われています。初めに、センターへ申込み後、歯科衛生士が即対応で訪問し、担当ケアマネージャーに情報提供を頂き、全身疾患や家庭環境、口腔内観察等の事前調査をして主治医に繋げます。先生方の平日昼休みの限られた時間でも初回からスムーズに診療ができ、診療後のケアもできるのが特徴です。この13年、ライトバンの診療車とポータブルユニットも私達2名の衛生士と共に年輪を刻んできましたが、一件の事故もなく今日に至っています。

(年平均延べ出動回数130回、年平均患者実人数34人)それと並行して訪問口腔ケアが開始されました。

当時、歯をみがく事は日々の療養生活の中では食事介助や排泄の世話に比べ軽視されており、「口腔ケア」の重要性も今日のように知られていませんでした。訪問させて頂いた殆んどの方は目がうつろで、生気がなく、おいしく食べるというよりは生きる為に食べさせられている様子で、介護者も三度の食事の準備と食べさせる事で一日があっという間に過ぎるとの事で、口腔清掃は全く頭にはなく、数日前のものかと思われる食物残渣のある状態でした。歯科専門職として厳しい現実を目の当たりにして非常にショックを受けたのを今でも鮮明に覚えています。

そして、最も残念な事は私達の職名である「歯科衛生士」の知名度があまりにも低かったという事です。そんな私達歯科衛生士の必要性を理解し、導いてくれたのは常に10年先を見つめて仕事をしていた、まさに先見の目を持った当時の保健師長でした。

「人間が生きる上で一番大事な事は口が健康である事、歯が汚かったり、痛かったりしたら美味しく食べられない。特に寝たきりの人は体力も気力も抵抗力もないのだから、助かる命も助からない。あなた達の仕事はとても重要で、あなた達二人の笑顔はどれ程患者さんを元気づける事でしょう。まずは衛生士としてより一人の『人』として向き合う事が大切だよ。」と、なかばおだてられ、一から手探りで始まりました。

常に患者さんや家族とのコミュニケーション

を大切にして信頼関係を築きながら地域の方に育てて頂きました。口腔ケア後の見違える程の目の輝きと笑顔は家族を安心させ、本人の生きる意欲に繋がっていきました。

現在では口腔ケアの重要性が医療現場でも求められ、長年の貴重な記録と経験は患者さんの温かい理解を頂き、歯科衛生士学校以外にも、最近では高等看護学校、看護大学への学生教育の場にも生かされるようになりました。

こうやって天職と思える歯科衛生士を今も現役でさせてもらえるのは、口腔ケアの重要性とそこに関わる歯科衛生士を十分に理解してくれた大きな力があったからだと深く感謝しています。

そして今でも、他職種の連携と協力のもと行政での歯科保健事業を通して、歯科衛生士として成長させて頂いているところです。

～名取市の歯科保健事業の展開～

宮城県は3歳児のむし歯数全国ワースト3位で（H19年＝1.92本）であり、名取市は昨年では県内むし歯の少ない地域4位（仙台市含む）（H19年＝1.4本）にあります。当市では早くから妊婦歯科健診をマタニティーセミナーで年2回実施しており、（県内実施地域7か所）『マイナス1からの歯育て』と題して歯科医師による歯科講話と衛生士による歯みがき実践指導をしています。

7か月健診では診察の待ち時間を利用して『初めての口腔ケア』として小集団歯科指導を実施して3年が過ぎました。「歯が生えてからでは歯みがきは遅い」と、保護者にはこの時期から子供の目の前で親が歯みがきをする姿を見せる事の大切さを伝え、歯ブラシの前に親子のスキンシップとしての赤ちゃんの歯茎マッサージをする事を紹介して実践指導をしています。赤ちゃんが気持ちよさそうに笑顔になるので母親から好評を頂いております。幼児歯科健診は毎月1回の1歳8か月、2歳6か月（2年前から希望者には健診時に歯科医師が歯ブラシ法でのフッ素塗布を実施＝昨年の希望者99%、塗布者97%）、3歳6か月

の3回実施しています。（各受診者年間約600人）全ての健診では仕上げみがきにフッ素洗口液つけみがきを紹介しています。本児のみならず、兄弟、両親と共に家族ぐるみでフッ素を利用した歯みがきのむし歯予防を推進しています。健診のフォローには毎月1回の歯科相談を実施しています。更に地域にも出かけ育児サークル、子育て支援センター、保育所、幼稚園の保護者参観、小学校への歯の授業等楽しく歯の健康教育をしています。全ては名取市の歯科保健目標であるむし歯予防を通して母親が安心して子育てできる支援を目指して日々努力しています。

成人期では40歳～70歳の節目の歯周病検診を実施し（受診率13%）、成人や元気高齢者の支援としても各種団体への歯科健康講話をしています。居宅療養者の訪問歯科診療と歯科保健事業を通して全てのライフステージに従事させて頂き、歯科衛生士として充実した毎日を過ごさせております。



私の永遠のテーマである「今の時代に求められる衛生士であり続けたい」という熱い思いで周囲の理解のもとにH19年3月東北大学大学院歯学研究科修士課程社会人枠2回生として卒業しました。家庭と職場と大学の両立と厳しい環境で辛い事もありましたが、それ以上に大学での小関教授や多くの先生方、同期生との出会いと学びに一生の財産を得る事ができました。

私は歯科衛生士になり25年になります。仕事を通して多くの人との出会いに今があります。これからも常に感謝の気持ちを忘れずに自分らしく、まちの衛生士として歩んでいきたいと思えます。

『一生青春一生感動！ あいだみつを』

理事の独り言（その38）

ギドーさん

行歯会東海ブロック理事 中村宗達
（静岡県厚生部医療健康局 技監）

中島義道が好きだ。もちろん、恋しているとか、愛しているとか言うわけではない。彼は、その著書名にもあるように「狂人三歩手前（新潮社）」の人だ。もし、こんな人が身近にいたとすれば、とてもつき合いきれないだろう。でも、彼の本は非常に刺激的で、魅力的で、多くの場合、私達を普段忘れていた「自分自身」と向き合わせてくれる。そういう意味で好きなのだ。

「狂人三歩手前」は、こう始まる。＜どうせ死んでしまう＞生きている意味はないと思う。いかに懸命に生きてみてもいずれ死んでしまうのだから。・・・また、最初に読んだ「人生を半分降りる（新潮 OH！文庫）」の序章は「あなたはまもなく死んでしまう」だ。普通、こうは書かない、書けない、でしょ。でも、彼の多くの本は、たいがいこんな調子で、私達をひねくれ者（いや、正直者かな？）の哲学者の世界に連れて行ってくれる。

我が家では、彼のことを敬愛の念をこめて“ギドーさん”と呼んでいる。ギドーさんは書きます。「善良であることがいかに悪であるか」「幸福がいかに幻であるか」「愛しも愛されたくもない」「人生は、まあつまらない」それに「死ぬのは厭だ」などなどなど。また、ギドーさんは、駅や商店街のスピーカーから流されるうるさいテープ放送や音声案内をやめさせるべく立向かい、街の景観を壊す看板や無意味で不快なキャンペーン広告を排除すべく関係者に体当たりもする。現代のドン・キホーテ？

さて、彼は私たちに「社会的に有益な仕事から手をひけ」と言います。エエッ？なんでやねん！ どういうこっちゃ！ この理解のために、ギドーさんの文でお気に入りのものを。「仕事のための所謂“充電”といわれる休暇は、あたかも肉牛が自分の肉を霜降りにするために運動しているよ

うなものだ。」いいでしょ。で、これから察するに、さっきの文はおそらく「社会的に有益であっても、個人の時間を消費させるに値するいかなる仕事も有り得ない」というあたりか？さらに、「いかなる有益なことも“あなた”が参加する理由はない」とも言っている。もっと色々説明しているので、読むとおもしろいよ。

さてさて、このようなギドー節に染まるならば、どうも私はこれまで自分の時間を不用意に使いすぎていたようだ。自分の時間を使った自分の仕事、自分の納得のいくものであったか？意に反した仕事をしていなかったか？

答えはノー、そうでなかったことの方が多かったし、そもそも、仕事よりももっと大切なことがあったのではないか！考えることがいっぱいあったのではないか！！ ああ、耳が痛い。

ギドーさんの書いていることは、おそらく多くが当たっている。はじめにもどって「あなたはまもなく死んでしまう」について。そう、そんなに遠い先のことでなく、まちがいなく私は死ぬ。ところが、ところが、どういうわけか、今は生きている。これもまちがいない事実。ならば、どうする。

う～ん、限られた時間、結局、できるだけ好きに生きることかな～ ああ、落ちのない、平凡な結論になってしまいました。（ギドーさんとは言う、答えは有るような無いようなで、それより彼の「死にたくない！」という叫びに共感を持っています。）

最後に好きな詩をひとつ

白いくもは ふわふわとういっているだけ

（みずしま すすむ）



◆第 26 回公衆歯科衛生研究会(通称 ネコの会)のご案内◆

日 時:平成21年3月1日(日) 9時～17時

会 場:兵庫県中央労働センター

テーマ:“失敗を活かす!”

詳 細:<http://www.leo.or.jp/Dr.okazaki/info.html>

◆国立保健医療科学院の歯科保健研修(歯科専門職向け)のご案内◆

概要:行政機関等に勤務する歯科専門職(歯科医師、歯科衛生士)の資質向上を図る研修

期間:平成 21 年 8 月 24 日(月)～8 月 28 日(金)5日間(集合研修)

※ 前後に遠隔研修を実施

平成 21 年 7 月 21 日(火)～8 月 21 日(金)、8 月 31 日(月)～9 月 18 日(金)

受付:平成 21 年 4 月 1 日(水)～5 月 29 日(金)

詳細: http://www.niph.go.jp/entrance/h21/course/short/short_chiki14.html